



土岐市長
加藤 淳 司

あけましておめでとございます。皆さまには清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年はコロナ禍からまちが笑顔を取り戻した一方、担い手の不足など、地域の行事や組織の運営が曲がり角にあることを実感する一年でもありました。

そのような中、本市では証明書のコンビニ交付など行政手続きのオンライン化、企業などと協働し市民サービスの向上を目指す公民連携の推進、伝統文化の継承事業やふるさと納税制度を活用した美濃焼のPRなど、愛着と誇りをもてるまちへ向けた施策を展開してまいりました。

正解がない時代といわれる今、新しい社会を創るときであると認識し、本年も重点施策である読書率の向上と全世代健康寿命延伸事業に加え、「まちづくり」の柱に市政に取り組んでまいります。

まちづくり事業では、土岐市の地域資源から新たな交流が生まれる仕組みを築

くため、旧土岐少年自然の家周辺の環境を生かした「泉北部レクリエーションゾーン」や美濃焼と市の歴史・文化を学び・楽しむ「新しい博物館」の整備事業を進めます。また、公立保育園をこども園へ移行するなど、子ども・子育てを切れ目なく支援します。ひとづくり事業では、複雑・多様化する課題を抱える子どもや保護者を支援するため教育支援センターを設置するほか、中学校部活動の地域クラブへの移行を支援します。くらしづくり事業では、令和8年2月の開院を目指し、新病院の建設を着実に進めます。

今年の方針は「甲辰」。努力してきたことが実を結び、成就する年といわれています。市制施行70周年となる令和7年2月、そしてその先へ視点を向けて、土岐市の次のステージを皆さまと創ってきたいと思っております。

本年が皆さまにとって幸せな一年となることを祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

あけましておめでとございます。市民の皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。市議会を代表いたしまして謹んで年頭のごあいさつを申し上げますとともに、日ごろの市議会に対するご理解ご支援に対し、心より御礼申し上げます。

さて、昨年は私たちの生活を翻弄した新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類」へ見直され、経済活動や地域、学校行事など制限を受けていた活動の再開により、社会が以前の姿に戻りつつあることを実感しています。

しかし、想定を上回るスピードで進行する少子化や深刻化する人手不足、世界規模でのエネルギーや食料価格の高騰など、私たちを取り巻く社会環境は大きく変わっています。そうした中、統一地方選挙が行われた昨年4月、土岐市議会において7名の議員が入れ替わり、6人が新人というフレッシュなメンバーでスタートをしました。これまでの間、市民

の皆さまの暮らしを守る施策を市の執行部とともに進めてまいるとともに、コロナ禍で中止しておりました議会報告会を市内6つの会場で開催いたしました。市議会の活動報告のほか新病院や新しい博物館など市の事業について直接意見を聴かせていただき、市議会が取り組むべき課題を再確認することができました。

市議会は土岐市の意思を決定する機関として、その重責を果たし、活動を広くご理解いただくため、「議会だより」を発行するとともに、本会議のインターネットでのライブ中継・録画配信のほか、ケーブルテレビで一般質問のライブ中継を行っています。これからもより身近で開かれた議会を目指し、活動してまいりますので、さらなるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年も皆さま方におかれましてはご健勝で希望に満ちた実り多い年であり、心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



土岐市議会議長
西尾 隆 久

令和6年 新年のご挨拶

セラテクノ土岐から御嶽山を望む